

1

福

整列

薬局

金庫

放っ

暑い

2

1 A ウ

B エ

C ア

2 群れしい (2 完 答)

3 I 限られ

II 人間は

4 効率化

5 ア

6 おもちや

7 I 生きない (7 I・II 各完答)

II 飼いて

3

1 エ

2 A ア

B ウ

C エ

3 クツいた (3 完 答)

4 転校したくない

5 エ

6 心配事

7 どうし

8 I ぼくはご

II バットと

配 点
1 各2点× 6 = 12点
2・3 各4点× 22 = 88点
〈計〉 100点

1

- 1 「福」は「復」や「副」などの同音の字を書かないように気をつけよう。「福」は「幸せ」、「幸運」という意味を持つ字である。
- 2 「整」は右上のぼくにようを三画で書かないように、「列」は「死」のように一画目を右側までのばして書かないように気をつけよう。
- 3 「薬」は九画目と十画目、十一画目と十二画目をそれぞれ続けて書かないように気をつけよう。
- 4 さほど難しい字ではないので、確実に正解してほしい。「庫」はものをしまっておく建物、倉を意味する字である。
- 5 これも字形は易しいが、話し言葉ではあまり使わないことばだろう。非常に多くの意味を持ったことばで、文章中では「解き放つ」という形でよく使われる。
- 6 「熱」や「厚」などの同訓の字を書かないように気をつけよう。「暑い」は気温の場合に使い、反対は「寒い」である。「熱い」はものの温度の場合に使い、反対は「冷たい」である。「厚い」の反対は「薄い」である。

2

- 1 それぞれ段落の冒頭にある接続詞なので、前後の段落全体の内容に視野を広げて考えよう。(A)は前に「飼い慣らした」とあるのに対して後には「肉食の猛獣である」ということが書かれているので「しかし」があてはまる。(B)は前後に「オオカミは外敵であった」、「限られた食糧を分け与えなければならぬ」という、オオカミ(イヌ)を飼い慣らそうとするはずがない理由が並べられているので「しかも」があてはまる。(C)は後に長い時間が経過したということが述べられているので「そして」があてはまる。
- 2 説明的文章の冒頭に問いかけがある場合は、本文を通読する際にその答えとなる部分を見つけておくようにしたい。「最近の研究では」ではじまる段落で最新の仮説が紹介されている。
- 3 謎が「多い」とあるので、並列に注目して読んでほしい。まずは——線部を延長して読むことで「どのようなことに対する謎なのか」をつかんで、後続部分から答えをさがそう。
- 4 問2で考えたように、もともとオオカミの方から人間に近づいたということになっているが、人間側に何のメリットもなければわざわざパートナーにはしないだろう。人間にとってオオカミ(イヌ)は、どのように役に立ったのか。
- 5 「ふさわしくないもの」を選ぶということに気をつけよう。④の前後のつながりから、この空らんにはいるのは「愛玩犬の仕事」であるとわかる。「人間に守られる」のでは「仕事」とは言えない。
- 6 ⑤の前に「まるで」とあるので、比喩的な表現がはいるとわかる。イヌはどのように買われていくのか、と考えるが、そうして買われていったイヌたちが、買われたときと同様に「おもちゃのように」飽きられて捨てられる、ということである。
- 7 ——線⑥の直前には「これが」とあり、指示内容は直前にあると考えられる。あとは◎の文をヒントにしてさがしていけばよい。

3

- 1 安易に本文中にあることばを選ばないようにしよう。光輝は「引越したとしても転校はしたくない」のだから、文章全体から読み取れる。では転校したくないのはなぜか、と考えを進めればイカエにしばれるが、グッピーの世話をするだけで転校したくない理由だというわけではないのでエに決まる。
- 2 (A)は「クッキーを五枚食べるうちに」とあるので、ゆっくりとつかえながら話している様子を表す「とつとつ」があてはまる。(B)は直前で母さんからどうしても転校せざるをえないという話を聞かされた光輝がいろいろなことを考えている様子なので、頭の中にいろいろな思いが巡っている様子を表す「ぐるぐる」があてはまる。(C)は光輝が涙を流している、「声を出そうとしても」(C)という音しか出なかった」ということ、またその二行後の「しゃくりあげながら」という表現から「ひつくひつく」があてはまる。
- 3 母の様子を見て「いつもとちがう」と感じているのである。——線②の直前の「やっぱり」という表現からは、ここ以前にもそういった様子があったということがわかる。本文冒頭に「めずらしくクッキーを焼いていた」とあった。
- 4 ◎の文を読めば()には「ぼくの願い」がはいるということがわかる。——線③の二行後で「転校だけはしたくない」と言っているが字数が合わない、本文三行目の「転校したくない」が答えになる。
- 5 アーエの選択肢を横向きに見て、④は「緊張」と「期待」の二種類しかないと気づきたい。——線③で願いを聞いてくれると「期待した」光輝に母さんは「でもね。」と返している、④には「緊張」があてはまる。⑤は「いやな」からのつながりで「予感」があてはまる。⑧では、我慢していた気持ちを先生が分かってくれた、という安心の涙を流している。
- 6 直前の母さんのことばに対する光輝の反応である。自分の幼さ・頼りなさのせいで新しく仕事を始める母さんの「心配事」になってしまうのか、と考えると光輝はこれ以上自分の願いを主張できなかったのであろう。
- 7 ここで「仕方がないこと」とは「転校すること」であり、これを光輝に「仕方がない」と思わせたのは母さんであった。本文前半の場面に戻り、母のことばのなからさがしていこう。
- 8 自分の気持ちを押し殺している様子は本文中の多くの部分に表れているが、我慢する気持ちが具体的な「行動」として表出していると考えられるのは本文前半の最終行にある「牛乳を飲む」という行動と、——線⑦の四行前の「唇をくんで、首を横に振り続けた」「バットとグローブを押し入れの奥にしまった」という行動に絞られる。それぞれ「転校したくない」という気持ちと「友達とたのしく野球がしたい」という気持ちを我慢しようとしているのである。

以上